

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
 領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
 評価用研究成果報告書

課題		行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開			
研究テーマ名		生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成			
研究代表者	所属機関	東北大学			
	部局	加齢医学研究所			
	役職	教授	氏名	杉浦元亮	
委託研究費		単位：千円			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
3,000	3,450	2,560	2,700		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究では危機を回避したり困難を克服したりするための人間の内面的な力「生きる力」に関する実証的・学際的な研究の展開を目指した。具体的には「災害を生き抜く性格・考え方・習慣とは何か？」という問いに対する東日本大震災の被災者の様々な回答から、社会心理学的に抽出した「生きる力因子」について、認知・神経科学的な検証・分析を行い、その知見を災害・一般教育の理論・実践に反映させる学問領域の開拓を目的とした。この研究は一面では東日本大震災の体験をいかに語り継ぐかという災害社会科学的課題への回答であり、また一面では中央教育審議会答申（1996）で「変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たち」に必要とされた生きる力をどう実証的に教育現場に実装するかという教育学的な問いへの回答である。

内容としては災害を生きる力に関する調査データの詳細分析を行い、生きる力の8因子—気持ちを整える力（F6 感情制御）、問題に対応する力（F2 問題解決）、人を思いやる力（F3 愛他性）、きちんと生活する力（F5 エチケット）、人生を意味づける力（F7 自己超越）、人をまとめる力（F1 リーダーシップ）、生活を充実させる力（F8 能動的健康）、信念を貫く力（F4 頑固さ）—とそれぞれ異なる震災時の行動との関係が明らかとなった。これら生きる力各因子の認知科学的検討のため、危機回避文脈を実験課題化した「想定外事象対応課題」実施中の脳活動を計測し、「問題に対応する力」が高い被験者ほど脳活動が少ない領域を左前頭葉、側頭葉に同定した。また困難克服文脈を実験課題化した「感情制御課題」実施中の脳活動を計測し、「気持ちを整える力」が高い被験者ほど脳活動が少ない領域を側頭葉と頭頂葉の一部で同定した。これらの成果をもとに、質問紙と認知科学研究知見を実証的に活用する新しい文理融合学問領域の開拓を目指し、災害教育に関わる様々な分野の専門家・現場当事者を集めた様々な研究会、共同研究、打ち合わせを行った。この中で生きる力質問紙の「状態計測版」の開発を行った他、質問紙による評価が教育プログラムの改良等に「活用される」展開を探り、評価ツールとしての有効な活用の仕方を検討した。

このように、認知神経科学的研究成果から質問紙の現場応用まで、認知神経科学や様々な心理学分野の研究者、教育現場の理論家・現場当事者が議論する場を設定することにより、「生きる力」を実証的に活用する新しい文理融合学問領域の創生に一定の成果を収めた。